

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○空のゲート機能充実
主な取組	離島拠点空港の国際線受入体制の整備		実施計画記載頁	195
対応する主な課題	①空の玄関口である那覇空港については、観光客の増大に対応できるよう那覇空港の滑走路増設、国内・海外誘客を強化するための旅客ターミナルの拡充が大きな課題となっている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
国際便運航の促進、空港利用者の利便性や快適性の向上を図るため、新石垣空港や宮古圏域の空港において、国際線旅客ターミナルビルやCIQ施設を整備する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		新石垣空港エプロン拡張整備				
		新石垣空港国際線旅客施設整備				
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	土木建築部空港課		【098-866-2400】			
		下地島空港ターミナル地区整備				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名		R元(H31)年度					平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源
公共離島空港整備事業								
各省計上	直接実施	-	-	32,400	77,934	556,135	41,313	各省計上
							○H30年度: 新石垣空港エプロン拡張部の整備を行った。	
							○R元(H31)年度: 新石垣空港エプロン拡張部の整備を完了させる。	
南め島国際観光戦略拠点整備事業								
一括交付金(ソフト)	補助	-	67,378	-	-	0	1,230,856	一括交付金(ソフト)
							○H30年度: 新石垣空港ターミナルビル会社にて国際線旅客施設の増改築工事の入札を実施したが応札者がなく不調となった。	
							○R元(H31)年度: 新石垣空港ターミナルビル会社にて国際線旅客施設の増改築工事を行う。	

予算事業名		R元(H31)年度					平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画		
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
下地島空港及び周辺用地の利活用促進事業									
一括交付金(ソフト)	直接実施	-	-	-	38,000	368,700	0	一括交付金(ソフト)	
							○H30年度: 下地島空港ターミナル地区の整備を行った。		
							○R元(H31)年度: なし(平成30年度完了)		
活動指標名	新石垣空港エプロン拡張整備				H30年度			進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	-	-	-	-	新石垣空港エプロン拡張整備の実施	-	100.0%	924,835	やや遅れ
活動指標名	新石垣空港国際線旅客施設整備				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	-	-	-	-	再入札を実施	-	20.0%		
活動指標名	下地島空港ターミナル地区整備				H30年度				
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B		
	-	-	-	-	下地島空港ターミナル地区整備の実施	-	100.0%		

(2) これまでの改善案の反映状況

活動概要
新石垣空港エプロン拡張部の用地造成等の整備及び下地島空港ターミナル地区の整備を行った。
新石垣空港において平成29年度に2度入札不調となっている国際線旅客施設の増改築工事の入札を実施したが応札者がなく不調となった。

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
新石垣空港における国際線旅客施設の増改築工事は入札の不調により整備に着手できなかったものの、新石垣空港エプロン拡張部の整備及び下地島空港ターミナル地区の整備は計画通り実施できたため、やや遅れと判断した。
国際線旅客施設の整備により、国際便運航の促進、空港利用者の利便性や快適性の向上につながる。

様式1(主な取組)

平成30年度の取組改善案	反映状況
<p>①新石垣空港においては、国際線旅客ターミナル等の早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備に取り組む。</p> <p>②下地島空港においては、官民連携を図りながら、ターミナル地区の整備に取り組んでいく。</p>	<p>①新石垣空港においては、国際線旅客ターミナル等の早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備工事落札に向けて取り組んだものの入札不調により整備に着手出来なかった。</p> <p>②下地島空港においては、官民連携を図りながらターミナル地区の整備に取り組み、事業を完了した。</p>



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
<p>○内部要因</p> <p>・新石垣空港では、利用客の増加に伴い国際線旅客ターミナルビルが狭隘化している。</p>	<p>○外部環境の変化</p> <p>・ターミナルビルの拡張工事の入札を実施したが、民間の建築工事発注が旺盛である事から、公共工事の不調不落が多発している状況がある。</p>
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<p>・不調不落対策として、ターミナルビル会社に対し設計見直し等の助言を行う。</p>	



4 取組の改善案(Action)

<p>・新石垣空港においては、国際線旅客ターミナル等の早期供用に向けて、関係機関等との連携を行いながら、整備に取り組む。</p>
--

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	更なる大型クルーズ船の受入体制の構築		実施計画記載頁	195
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリナーや人エビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画			
	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)
クルーズ船利用者における、安全性・快適性・利便性の確保及びクルーズ船誘致に向けた取組強化に向け、泊ふ頭岸壁における更なる大型クルーズ船の受入、クルーズ船にも対応したコンテナターミナルの岸壁延伸整備、第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組を促進する。	泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組			
	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備			
実施主体	国、那覇港管理組合			
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2665】			
	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組			

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)									
予算事業名	国直轄								
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	○H30年度: 更なる大型化に対応するため、泊8号ドルフィンの岸壁化施工に係る検討業務をおこなった。 ○R元(H31)年度: 国において、第2クルーズパースの整備を行う

予算事業名	航行安全調査業務									
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
							当初予算額	主な財源		
県単等	委託	—	—	—	18,211	—	19,500	県単等	○H30年度: 更なる大型クルーズ船の受入れを検討するため那覇港大型旅客船入出港要領の策定を行い、平成31年4月より適用する。 ○R元(H31)年度: 泊8号岸壁にて更なる大型クルーズ船の受入を検討する	
活動指標名	泊ふ頭8号岸壁における更なる大型クルーズ船の受入の取組				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	入出港要領 の 策定	—	100.0%	0	順調	泊8号岸壁において、那覇港大型旅客船入出港要領の策定を行った。 また、那覇港が、「『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾」第3次募集へ応募し、指定候補として追加で選定された。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 泊8号岸壁において、16万トン級の大型クルーズ船の受入を開始した。 また、「『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾」に指定候補として追加で選定されたことにより、平成31年度より第2クルーズパースの整備が事業化され、順調に取り組むことができた。
活動指標名	クルーズ船にも対応した、コンテナターミナルの岸壁延伸整備				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	コンテナターミナルの岸壁延伸工事	コンテナターミナルの岸壁延伸工事	コンテナターミナルの岸壁延伸工事	—	100.0%			
活動指標名	第2クルーズ岸壁等の整備に向けた取組				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	-	-	-	-	国際クルーズ拠点港湾の指定	—	100.0%			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
①クルーズ拠点形成を図るため、官民連携等の活用を検討する。 ②国等に対し第2クルーズバースの早期整備の要望を行う。 ③現在、貨物船と併用する計画である新港ふ頭12・13号岸壁のクルーズ専用化に向けた港湾計画の一部変更等を行う。	①『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾に指定候補として追加で選定された。 ②平成31年度に第2クルーズバースの整備が事業化された ③新港ふ頭12,13号岸壁のクルーズ専用化に向け、新たな貨物岸壁の位置や機能の検討を行った。



3 取組の検証 (Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因 ・クルーズ専用岸壁で受け入れができない大型客船を、貨物岸壁で受け入れており、旅客の満足度の低下が懸念される。 ・『官民連携による国際クルーズ拠点』を形成する港湾に「MSCクルーズとロイヤルカリビアン」を連携船社とし、指定候補として追加で選定された。 ・官民連携形成計画書(目論見)の中で、運営開始年を2022年春としている。	○外部環境の変化 ・平成31年度より第2クルーズバースが事業化された ・想定以上のクルーズ船寄港数の増加とともに、寄港するクルーズ船の大型化が進んでいる。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・第2クルーズバースの係船柱、防舷材等の付属施設の設計にあたっては、船社と協議を行い必要な整備を行うよう推進する必要がある。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案(Action)

・第2クルーズバースの係船柱、防舷材等の付属施設の設計にあたっては、船社と協議を行い必要な整備を行うよう推進する。 ・第2クルーズバースの2022年春運営開始に向けて、関係機関と連携して必要な予算の確保を行う。
--

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化		
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実		
主な取組	那覇港コースタルリゾート・ウォーターフロント整備事業			実施計画記載頁	195	
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。					

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
魅力ある観光リゾートとレクリエーションの地形形成を図るため、那覇港における海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備を促進する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
			港湾計画改訂			
実施主体	那覇港管理組合、浦添市		港湾計画改訂手続き		環境アセスの実施	
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】			

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	那覇港コースタルリゾートウォーターフロント整備事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 既定計画の見直しについて、関係機関との調整を行うとともに、配置計画等の検討を行った。
一括交付金(ハード)	委託	54,076	—	—	—	—	—		○R元(H31)年度: 既定計画の見直しについて、関係機関との調整を進めていく。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: —
		—	—	—	—	—	—		○R元(H31)年度: —

活動指標名	港湾計画改訂の手続き				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要 既定計画の見直しについて、関係機関との調整を行うとともに、配置計画等の検討を進めた。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	港湾計画改訂に向けた調整	—	57.1%	0 大幅遅れ		進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 那覇港港湾計画の見直しについて、関係機関と調整を行ったが、配置計画等の調整がまとまらなかったため、進捗状況は大幅遅れと判定した。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①港湾計画改訂に向けて、長期構想検討委員会により、20~30年後の那覇港のあり方について鋭意検討を進める。	①関係機関と調整を行っているが、那覇港港湾計画について調整がまとまっていないことから長期構想検討委員会は開催できていない。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅客者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している

○外部環境の変化

-

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・引き続き、関係機関との調整を密にし、既定計画の見直しについて検討を進める。

4 取組の改善案(Action)

・港湾計画改訂に向けて、長期構想検討委員会により、20~30年後の那覇港のあり方について鋭意検討を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港人流機能強化整備事業		実施計画記載頁	195
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人エビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウオーターフロントの整備や憩いの場として緑地の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港利用者の安全性・快適性・利便性の確保に向け、緑地や利便性向上施設等の整備、クルーズ受入促進事業などを促進する		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】					
		緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	那覇港人流機能強化関連事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度:泊ふ頭の屋根付き歩道の整備及び、浦添ふ頭東緑地の整備を行った。 ○R元(H31)年度:浦添ふ頭東緑地の整備及び、多言語の誘導標識等の整備を推進する。
							103,741	一括交付金(ハード)	
一括交付金(ハード)	委託	118,804	157,015	107,375	296,689	100,593			
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: — ○R元(H31)年度: —
							—		
		—	—	—	—	—	—		

活動指標名	緑地、みなとまちづくり、利便性向上施設等の整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	利便性向上に向けた整備				利便性向上に向けた整備	—	100.0%			
活動指標名	—				H30年度			100,593	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 泊ふ頭の屋根付き歩道の整備を行ったことで、フェリー客の雨・風を防ぐことができ、利便性の向上が図られた。また、浦添ふ頭東緑地の整備を行い、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性に寄与することができ、順調に進捗した。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			
活動指標名	—				H30年度			100,593	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 泊ふ頭の屋根付き歩道の整備を行ったことで、フェリー客の雨・風を防ぐことができ、利便性の向上が図られた。また、浦添ふ頭東緑地の整備を行い、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性に寄与することができ、順調に進捗した。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—	—			

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①県及び那覇港管理組合は、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性に寄与するため、屋根付き歩道及び多言語による誘導標識等の整備を推進する。	①屋根付き歩道の整備を行い、多言語による誘導標識等の整備を推進した。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・今後も那覇港における旅行者数の増加が見込まれるため、観光地としての快適な周辺環境の整備の重要性が増している。

○外部環境の変化

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・県及び那覇港管理組合は、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮した施設整備に取り組む必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・県及び那覇港管理組合は、観光客・利用者の安全性・快適性・利便性を考慮した屋根付き歩道及び多言語による誘導標識等の整備を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-工	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港産業推進・防災事業		実施計画記載頁	195
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人エビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
生活基盤としての那覇港の機能維持・強化のために、旅客待合所、上屋等の耐震化や長寿命化対策等を推進する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
			新港ふ頭4号上屋延命化(完了)	新港ふ頭5号上屋延命化(完了)		那覇ふ頭1,2号上屋建替(完了)
実施主体	那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2665】					
		旅客待合所・上屋の延命化、耐震化及び建替え等の実施				
		ガントリークレーン延命化対策事業				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	那覇港産業推進・防災事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
							193,129	県単等	○H30年度: 新港ふ頭地区において、船客待合所及び5号上屋の大規模改修工事とガントリークレーン2号機の延命化対策工事(第2期)を実施した。 ○R元(H31)年度: 那覇ふ頭上屋建替え事業を推進するとともに、ガントリークレーン2号機の第3期延命化対策工事を実施する。
県単等	委託	—	—	142,985	408,923	230,363			
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
							—		○H30年度: — ○R元(H31)年度: —
		—	—	—	—	—			

活動指標名	船客待合所や上屋の耐震化、延命化等の実施				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		船客待合所の耐震設計等の実施	船客待合所の耐震改修工事等の実施			船客待合所、上屋の改修工事等の実施	—	100.0%	230,363	順調
活動指標名	ガントリークレーン延命化対策事業の実施				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		延命化対策工事の実施			延命化対策工事の実施	—	100.0%			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		—	—	—	—	—				

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①老朽化が進行しているため、荷役関係者とのヒアリングを行い、調整を行いながら、早期の延命化対策実施が図れるよう努める。	①入居者や使用者との事前調整を確実にし、工事を円滑に進めることができた。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・新港ふ頭上屋は供用中の建物であることから、荷役関係者等と工事のスケジュールや手順について連携を図る必要がある。

○外部環境の変化

・荷役関係者より、上屋の建物老朽化による雨漏り等で荷役作業に支障が出ているとの意見がある。

・上屋の破損や動作不良等老朽化に関する緊急修繕が増えている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

施設の巡回パトロールを強化し、使用者等と連携して、不具合箇所の早期発見、早期解消に努める。



4 取組の改善案(Action)

- ・老朽化した那覇ふ頭の上屋建替え事業については、平成31年度から実施設計に着手し、平成33年度の事業完了を目指す。
- ・また、ガントリークレーン2号機の延命化対策事業については、平成31年度に第3期延命化対策工事を実施する。
- ・さらに、平成30年度に引き続き新港ふ頭地区の船舶給水設備更新事業を実施し、平成31年度中の完了を目指す。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-工	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	那覇港臨港道路整備事業		実施計画記載頁	195
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇港と背後地あるいは那覇空港との連携を図るとともに、国際交流・物流拠点の形成に必要な効率的で円滑な貨物輸送を確保するため、臨港道路の整備を促進する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		浦添線完了				
実施主体	国、那覇港管理組合					
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2665】					
		臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備等				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)									
予算事業名 臨港道路整備事業									
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	○H30年度: 国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備に伴う設計業務委託を行った。 ○R元(H31)年度: 引き続き国において、那覇港の臨港道路(若狭港町線)の整備に伴う施工検討を進める。
予算事業名 那覇港臨港道路整備事業									
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
内閣府計上	補助	108,964	13,712	133,756	25,903	48,434	265,013	各省計上	○H30年度: 那覇港における港湾2号線改良(液状化対策)を実施した。 ○R元(H31)年度: 引き続き港湾2号線改良(液状化対策)を実施し、緊急時の港湾貨物の円滑な輸送を確保する

活動指標名	臨港道路(浦添線、若狭港町線)の改良、新規整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		臨港道路 の改良等				臨港道路 の改良等	—	100.0%	48,434	順調
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
①臨港道路港湾2号線の改良については、特殊な資機材を使用するためそれらを確保するための調整および適正工期の確保に取り組む。						①関係者から本土からの資機材の搬入時期等について調整し、特殊な資機材の確保及び適正工期の確保に努めた。				

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・臨港道路港湾2号線は緊急輸送道路に指定されており、地震時の災害においても安全・安心な物資輸送、貨物輸送を確保するため、早急に整備する必要がある。

○外部環境の変化

・総合物流センターの整備等の港湾機能の強化が進むにつれ、ますます泊大橋から曙交差点間の混雑が懸念されるため、早急に整備する必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・臨港道路港湾2号線においては平成31年度より財源を内閣府一括計上から国交省補助事業へと切り替え、早期の整備完了に向けた予算の確保に努めている。
・また、泊大橋から曙交差点間の混雑解消に向けては、臨港道路(若狭港町線)の整備が有効な解決策であると考えられる。



4 取組の改善案(Action)

・国に臨港道路若狭港町線の早期整備を要望するとともに、臨港道路港湾2号線について、適正な予算確保に努める。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	中城湾港・海洋レジャー拠点創出事業			実施計画記載頁
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリナーや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	29	30	31	32	33
泡瀬地区については、中城湾港新港地区の浚渫土砂を活用した埋立てにより、スポーツコンベンション拠点の形成を図ることを目的とし、人工海浜や緑地等の整備を行う。	緑地等整備				
	泡瀬地区における港湾施設整備				
	船揚場・泊地浚渫等				
	仲伊保地区: 船揚場・泊地浚渫				
	船揚場・泊地浚渫等				
実施主体	県				馬天地区: 船揚場・防波堤整備
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課		【098-866-2395】		

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(港湾)						H31年度		平成30年度活動内容と平成31年度活動計画	
	主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	783,436	1,901,462	2,194,185	567,643	1,141,915	1,338,556	一括交付金(ハード)	○H30年度: 護岸部分の地盤改良(約120m)及び護岸基礎(約180m)の整備を行った。	○H31年度: 護岸の整備(約100m)及び養浜整備を行う。

様式1(主な取組)

予算事業名	沖縄振興公共投資交付金(港湾)						H31年度		平成30年度活動内容と平成31年度活動計画		
	主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
一括交付金(ハード)	直接実施	180,239	104,567	299,421	157,483	223,494	168,368	一括交付金(ハード)	○H30年度: 馬天地区では取付護岸工の床掘工及び基礎工、防波堤(波除)の本体工14mを整備した。仲伊保地区については、事業費が確保できず未着手となった。	○H31年度: 馬天地区では取付護岸工の上部工、防波堤(波除)の上部工140mの整備を実施予定。仲伊保地区については、事業費が確保され次第着手する予定。	
活動指標名	緑地等整備				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
実績値	—	—	—	—	—	—	100.0%		1,365,409	やや遅れ	
活動指標名	船揚場・泊地浚渫(仲伊保地区)				H30年度						進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
実績値	—	船揚場・泊地浚渫	船揚場・泊地浚渫	—	—	—	20.0%		泡瀬地区においては、計画どおり整備を実施しており、順調に事業を推進している。仲伊保地区については、工事を発注することができなかった。馬天地区では計画通り取付護岸、防波堤(波除)を整備を実施した。3地区の進捗状況を勘案し、やや遅れと判断した。		
活動指標名	船揚場・防波堤整備(馬天地区)				H30年度						
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
実績値	船揚場・防波堤整備	船揚場・防波堤整備	船揚場・防波堤整備	船揚場・防波堤整備	船揚場・防波堤整備	—	100.0%				

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
<p>①国の直轄工事と連携のうえ、埋立事業の各施設(臨港道路、緑地、物揚場、防波堤等)の工事工程を適切に管理し、事業全体の早期供用に取り組むとともに、部分使用など、事業効果の早期発現に向けた検討を行う。また、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。</p> <p>②仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。</p> <p>③仲伊保地区及び馬天地区については、他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進する。</p>	<p>①国と連携して、早期整備、部分使用に向けた工程計画の検討を継続的に行っている。当該事業に関する関心喚起、理解度向上を目的に、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのイベント(「海の日イベント」)等を実施した。</p> <p>②仲伊保地区については、実施設計後の成果を基に施工計画を立案し、国に対する設計審査を行った。馬天地区については、港湾利用者へ工事の作業内容や工程等の周知を行った。</p> <p>③仲伊保地区については、工事着手前に環境現況調査を実施し、環境保全に関する対策の検討を行った。また、馬天地区については周辺環境に対する工事の影響の有無についてモニタリング調査を実施した。</p>



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因	○外部環境の変化
	<ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区について、地元(沖縄市等)から早期整備の強い要請がある。 ・仲伊保地区及び馬天地区については、工事期間中は、定期船などの港湾利用者の利便性や安全性に配慮しながら施工を行う必要がある。 ・仲伊保地区及び馬天地区については、埋め立てを伴う工事のため、環境に配慮し整備を推進する必要がある。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区において、工事期間が短いこと、多数の工事が混在すること等を踏まえ、早期整備に向けた効率的、効果的な整備推進が必要である。また、事業を円滑に推進するため、県民に対し、当該事業に関する関心喚起や理解度向上を図る必要がある。 ・仲伊保地区及び馬天地区について、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行う。 ・仲伊保地区及び馬天地区について、他港湾の海上工事と同様に、環境に配慮し海域利用者の理解も得ながら整備を推進させていく。 	



4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・泡瀬地区について、債務負担行為等を活用した効率的な工程計画により整備を推進する。また、引き続き、国や沖縄市等と連携し、人工海浜でのレクリエーションなど、イベント利用等を行う。 ・仲伊保地区及び馬天地区については、港湾利用者の利便性や安全性に配慮した施工計画の立案、工程管理を行い事業を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○海のゲート機能充実
主な取組	圏域の拠点港湾(石垣港、平良港、本部港)の整備			実施計画記載頁 196
対応する主な課題	②海の玄関口である港湾については、クルーズ船誘致に向けた更なる取組強化とともに、大型クルーズ船に対応した岸壁や旅客ターミナルビルの整備等による安全性・快適性・利便性の確保、マリーナや人工ビーチ等の整備をはじめ、国際的な海洋性リゾート地にふさわしいウォーターフロントの整備や憩いの場として緑陰の創出が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
石垣港、平良港、本部港において、クルーズ船誘致に向け大型クルーズ船に対応する岸壁や旅客ターミナルビルの整備、岸壁整備、ふ頭用地、防波堤の整備を行い、安全性・快適性・利便性の確保に努める。	(石垣港) 岸壁・防波堤・泊地浚渫等				
	大型旅客ターミナル整備等				
	第2クルーズバース岸壁等の整備に向けた取組				
	(平良港) 港湾計画改訂手続き				
	岸壁・臨港道路整備 H32供用開始				
	ターミナルビル整備 H32供用開始				
	・耐震強化岸壁整備 ・ふ頭用地、臨港道路・緑地等の整備				
	(本部港) 防波堤整備(供用) 岸壁整備(供用)				
	岸壁・防波堤の整備				
	ターミナルビル整備(供用)				
ターミナルビル整備					
実施主体	国、県、石垣市、宮古島市、民間				
担当部課【連絡先】	土木建築部港湾課 【098-866-2395】				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	石垣港港湾改修事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○H30年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備事業を実施した。 ○R元(H31)年度: 国直轄において、大型旅客船ターミナル整備事業を実施する。
予算事業名	平良港港湾改修事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	国直轄	○H30年度: 国において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁等の整備を実施した。 ○R元(H31)年度: 国において、国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁等の整備を行う。
予算事業名	本部港(本部地区)港湾改修事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
各省計上	直接実施	1,714,606	1,599,926	2,408,002	1,296,537	1,441,302	2,389,900	各省計上	○H30年度: 岸壁(-10.5m)、泊地浚渫及び沖防波堤の整備を実施した。 ○R元(H31)年度: 前年に引き続き、岸壁(-10.5m)及び泊地浚渫の整備を実施する。

様式1(主な取組)

活動指標名	大型旅客ターミナルの整備等(石垣港)				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	石垣港の整備	100.0%	1,441,302	概ね順調	石垣港については、大型旅客船ターミナル整備事業を実施し、同岸壁の暫定供用も開始された。平良港においては国際クルーズ船が寄港可能な耐震強化岸壁等の整備を実施した。また、本部港においては国際クルーズ船が寄港が可能な岸壁、泊地浚渫及び防波堤沖の整備を実施した。
活動指標名	岸壁・臨港道路、ターミナル整備等(平良港)				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	平良港の整備	60.0%			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 石垣港については、国において計画的に進捗がなされており、本部港においては岸壁の整備を実施し、沖防波堤整備もH30年度に全延長240mが完了している。ターミナルビル整備において平良港は形成協定、本部港は覚書を締結できていないため全体的な進捗としては概ね順調とした。
活動指標名	岸壁・泊地浚渫、ターミナルビル整備等(本部港)				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	本部港の整備	70.0%			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案					反映状況					
①県としては、引き続き、国、石垣市、宮古島市に対し、事業の早期整備や必要予算の確保等の要望を行うなど事業の促進を図る。 ②本部港において工事を行う際は、環境に配慮し、港湾及び海域利用者に対し説明会を開催するなど工事への理解を得ながら整備を推進する。					①国、石垣市及び宮古島市に対し、事業の早期整備等の要望を適宜行うなど事業の促進を図った。 ②本部港の工事の際は、港湾及び海域利用者へ工事内容の周知及び連絡体制を整密に連携をとって、環境に配慮した施工をおこなった。					



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)	
(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因 ・本部港は伊江島、鹿児島への定期航路があるため、事業を執行するにあたって船会社及び利用者の安全性、利便性に配慮しながら整備を推進する必要がある。 ・環境及び海域利用者に配慮しなければならないため、事業期間に制限がある。	○外部環境の変化 ・本部港は、「官民連携による国際クルーズ拠点」に選定されているが、ファーストポート対応に必要なCIQ機能の確保について、検疫を所管する厚生労働省との調整が整っていない。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・県としては、引き続き、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 ・本部港において工事を行う際は、環境に配慮するとともに、港湾及び海域利用者の理解と協力を得ながら整備を推進する必要がある。 ・本部港における検疫対応については、検疫法第3条の「検疫港の指定」のみならず、同法第21条の「運用による対応」も含めて、厚生労働省と調整を進める必要がある。	



4 取組の改善案(Action)
・石垣港・平良港では、県として、引き続き、国、石垣市及び宮古島市に対し早期整備等の要望を行うなど事業の促進を図る。 ・本部港では、環境に配慮し、関係者の理解を得ながら整備を進め、さらにクルーズ船社と覚書の早期締結に向けた協議を進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	那覇空港自動車道の整備			実施計画記載頁 196
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇空港と沖縄自動車道を連結し、本島中南部・北部の各拠点の地域振興の支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和を図るため、高規格幹線道路として那覇空港自動車道(小禄道路)の整備を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					
		小禄道路の整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	道路交通円滑化改築(国道506号)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	○H30年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 ○R元(H31)年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。

予算事業名	国直轄事業県負担金(国道506号)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	負担	114,050	185,144	371,336	355,014	467,000	637,000	県単等	○H30年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 ○R元(H31)年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。

活動指標名	小禄道路の整備				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	467,000	順調	国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。		
	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%					
活動指標名	—				H30年度							進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 小禄道路の事業進捗率は約54%で整備は着々と進んでおり順調とした。取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
—	—	—	—	—	—	—						
活動指標名	—				H30年度							
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
—	—	—	—	—	—	—						

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①・県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。	①県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案(Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化	
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備	
主な取組	沖縄西海岸道路の整備			実施計画記載頁	196
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点(那覇空港、那覇港)、高規格幹線道路(沖縄自動車道、那覇空港自動車道)を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、地域高規格道路として沖縄西海岸道路の整備を行う。						
実施主体	国	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課	【098-866-2390】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名		R元(H31)年度					平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源
道路交通円滑化改築事業(国道58号)								
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄
国直轄事業県負担金(国道58号)								
県単等	負担	419,675	353,994	386,478	389,195	164,000	103,000	県単等

活動概要
 ○H30年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。
 ○R元(H31)年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。

活動指標名	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	164,000	順調	国直轄で、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。		
	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%				進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 読谷道路の事業進捗率は約34%と、沖縄西海岸道路の整備は着々と進んでいるため、順調とした。取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点都市の結節性が向上し、観光客の移動円滑化に寄与する。	
活動指標名	—				H30年度					—		—
実績値	—	—	—	—	—	—	—					
活動指標名	—				H30年度			—	—			
実績値	—	—	—	—	—	—	—					

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。	①県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。

4 取組の改善案(Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化	
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備	
主な取組	ハシゴ道路等ネットワークの構築			実施計画記載頁	196
対応する主な課題	③観光客の移動の円滑化を図るため、渋滞緩和や広域交流拠点と主要観光地との結節性向上に資する体系的な幹線道路網の整備や、自動車と公共交通、公共交通機関同士の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
都市部の渋滞緩和、観光支援及び物流の効率化等を図るため、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶハシゴ道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
				浦添西原線(嘉手苺~小那覇)供用		
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課 【098-866-2390】					
		浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 地域連携推進事業費(地域高規格道路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 南部東道路(橋梁工事、改良工事等)の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 南部東道路(用地買収、橋梁工事、改良工事等)の整備を行う。
内閣府計上	直接実施	763,055	840,031	1,855,703	1,634,770	1,645,742	3,439,574	内閣府計上	
予算事業名 社会資本整備総合交付金(道路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 宜野湾南風原線及び東風平豊見城線の一部区間を4車線で供用したほか、浦添西原線(道路改良等)等の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 浦添西原線(改良工事等)、宜野湾北中城線(改良工事等)等の整備を行う。
内閣府計上	直接実施	7,996,153	5,163,282	6,897,653	5,563,770	3,519,819	6,726,050	内閣府計上	

予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(街路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 真地久茂地線外1線(用地補償等)、汀良翁長線(用地補償等)、那覇内環状線(橋梁工事等)等の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 真地久茂地線外1線(用地補償等)、豊見城中央線(用地補償等)、胡屋泡瀬線(用地補償等)等の整備を行う。
一括交付金(ハード)	直接実施	5,403,449	6,584,954	5,094,267	3,220,178	2,150,218	5,347,577	内閣府計上	

様式1(主な取組)

活動指標名	浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%	7,315,779	順調
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
①国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、部分的な開通等により、事業の早期効果発現を図る。 ②継続事業箇所にも主要渋滞箇所が含まれる場合は、先行して交差点部の改良を行うなど、早期の渋滞緩和に取り組む。						①南部東道路や宜野湾北中城線の部分供用開始に向けて、整備を推進した。 ②東風平豊見城線の4車線整備により、主要渋滞箇所である豊見城交差点の改良を行った。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)	
(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因	○外部環境の変化
—	・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、国や関係市町村等と連携し、ハシゴ道路ネットワークを早期に構築する必要がある。 ・沖縄地方渋滞対策推進協議会で抽出された主要渋滞箇所において、渋滞緩和に向けた早期の対策が求められている。	



4 取組の改善案(Action)
・国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、部分的な開通等により、事業の早期効果発現を図る。 ・継続事業箇所にも主要渋滞箇所が含まれる場合は、先行して交差点部の改良を行うなど、早期の渋滞緩和に取り組む。

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
<p>①モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺を含むモノレール延長区間の整備及びパークアンドライド駐車場の整備について、県、地元市及び沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し連携していくとともに、工程計画を共有するなど、事業の円滑な実施に取り組む。</p> <p>②関連道路の整備については、用地取得に際して地元町の協力も得ながら早期に補償物件の撤去を促すなど、工事を推進する。</p>	<p>①県、地元市、沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し、各事業の工程などについて情報共有を図った。</p> <p>②幸地ICに関する用地取得について、地元町とともに地権者との交渉を継続的に行った。</p>



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
<p>○内部要因</p> <p>・モノレール延長整備事業について、これまでのインフラ上下部工(桁、支柱)整備や駅舎の工事は完了している。今後は自由通路並びにモノレール株式会社が行うインフラ外部(電車線路、信号通信、駅施設設備)の整備を予定している。</p> <p>また、モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺は、モノレール延長整備事業の他、幸地インターチェンジ(仮称)及び県道浦西停車場線整備事業、パークアンドライド駐車場整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、多数の事業が集中している。</p>	<p>○外部環境の変化</p> <p>・延長開業に必要な用地の取得は平成28年度で完了した。</p>
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<p>・これまで整備を進めてきたインフラ部に加え、インフラ外部の工程も含めた工程計画を事業者間で共有する必要がある。</p> <p>・第4駅(てだこ浦西駅)周辺の整備については、各事業と充分連携を図るとともに、工程計画を事業者間で共有する必要がある。</p> <p>・関連道路に関しては工事工程に影響を与えないよう用地取得を図っていく必要がある。</p>	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案(Action)

<p>・モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺を含むモノレール延長区間の整備及びパークアンドライド駐車場の整備について、県、地元市及び沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し連携していくとともに、工程計画を共有するなど、事業の円滑な実施に取り組む。</p> <p>・関連道路の整備については、用地取得に際して地元町の協力も得ながら早期に取得し工事を推進する。</p>

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
①パークアンドライド駐車場整備事業を円滑に実施するため、発注者及び関連工事施工者との間で調整会議等を開催する。	①県、地元市、沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を年2回開催し、各事業の工程などについて情報共有を図った。



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因 ・パークアンドライド駐車場整備を予定している延長区間第4駅周辺は、モノレール延長整備事業の他、モノレールと高速道路結節のための幸地IC及び県道浦西停車場線整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、事業が輻輳している。	○外部環境の変化 —
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・各事業間の工程計画(法手続や工程上ネックとなる箇所)の情報共有を図る必要がある。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案(Action)

・パークアンドライド駐車場整備事業を円滑に実施するため、発注者、関連工事施工者との間で、調整会議等を開催する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	① 交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化
			施策の小項目名	○観光地巡りが楽しくなるみちづくり
主な取組	観光周遊自転車ネットワークの形成			実施計画記載頁 197
対応する主な課題	⑤中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
自転車道利用環境の整備による観光周遊自転車ネットワークを形成し、これまでのレンタカーによる観光から、自転車の利用促進も含めた多様な交通環境への転換を図り、観光まちづくりに取り組む。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 公共交通安全事業							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	85,642	433,156	309,400	81,930	39,148	211,000	一括交付金(ハード)	○H30年度: 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会にて、観光周遊自転車の取り組み内容について検討を行った。 ○R元(H31)年度: 上記の協議会が引き続きH31年度も開催されるため、協議会で整備内容について、継続して検討を行う。
予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H30年度: ○R元(H31)年度:

活動指標名	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	39,148	順調	本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会にて、観光周遊自転車の整備内容について検討を行い、モデルルートを決定、取り組み内容の検討を行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会にて、モデルルートの決定を行い、整備内容を検討したことで、観光周遊自転車ネットワークの形成に向けて進捗が図られていることから、順調と判断した。
	—	—	—	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	観光周遊自転車ネットワークのルート決定	観光周遊自転車ネットワークの選定、整備	100.0%			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①サイクリングコネクト事業をとおり、観光周遊自転車ネットワークのルート選定、整備方針について関係機関と意見交換を行い検討を行う。 ②市町村に対して自転車活用推進計画、自転車ネットワーク計画策定の促進を支援できるような情報提供、意見交換等の方法を検討する。	①サイクリングコネクト事業の中で、観光周遊自転車ネットワークのルートや、整備内容の検討を行った。 本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会で、関係機関と意見交換を行い、ルートの決定、取り組みの検討を行った。 ②サイクリングコネクト事業を用いて、自転車活用に関する意見交換・情報提供を行い、市町村のネットワーク計画策定を促進する支援を行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

- ・平成30年6月に国版の自転車活用推進計画が策定された。
- ・平成30年8月に羽地内海・本部半島サイクルツーリズム協議会が開催され、整備内容等の取り組み検討が始まった。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・観光周遊自転車ネットワークの形成については、走行環境の整備だけでは、効果を発揮できないため、国、市町村、関係機関と連携して受入環境整備、魅力づくり、情報発信等の改善方や、役割分担を検討し、サイクルツーリズム推進にかかる総合的な改善を図っていく必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・本部半島・羽地内海サイクルツーリズム協議会を通して、走行環境等の整備方針に関する提案を行い、多方面の意見を取り入れ、具体的な整備内容を決定できるよう取り組む。
- ・受入環境や、魅力づくり、情報発信等の整備について同協議会の各委員と協議し、受入環境整備、魅力づくり、情報発信等、総合的な改善を図っていけるよう協力していく。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	沖縄フラワークリエイション事業		実施計画記載頁	197
対応する主な課題	⑤中高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、観光地アクセス道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、沖縄観光のイメージアップと振興に寄与する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		70km 道路緑化・重点管理延長				80km(累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		観光地アクセス道路の緑化・重点管理				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 沖縄フラワークリエイション事業							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施した。 ○R元(H31)年度: 平成30年度までに緑化した箇所の継続と新たに観光地へアクセスする道路への緑化・重点管理を推進する。計画値:80km(累計)
							374,206	一括交付金(ソフト)	
一括交付金(ソフト)	委託	374,697	489,910	707,684	519,995	368,203			
予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: ○R元(H31)年度:

活動指標名	道路緑化・重点管理延長				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	50km	60km	70km	70km	80km	72.5km	100.0%			
活動指標名	—				H30年度			368,203	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 計画72.5kmに対し、実績80kmとなっており、順調に進捗している。国際通りや首里城等の観光地へアクセスする41路線(80km)について、緑化(草花等)・重点管理を実施したことにより、観光地沖縄としてのイメージアップと温暖化防止に寄与することができた。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案					反映状況					
①定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図っていく。					①定期的なパトロール等を実施し、草花等の育成管理を年間通じて実施した。また、季節や植栽箇所の状況等に応じ、草花や花木を選定し、植物が良好な状態を保てるよう灌水などの対応を取った。また、各土木事務所と造園業者と調整・会議等を実施し、品質の向上に努めた。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・沖縄観光のイメージアップのため、観光地までの主要アクセス道路について、年間を通して花と緑のある良好な道路空間を創出し、道路景観の向上と維持させる取り組みが求められている。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・年間を通して花や道路植栽を良好に保つためには、気候や周辺環境に応じた花木や草花を選定し、適切な育成点検や灌水を行う必要がある。
- ・メリハリある植栽・維持管理を行い、かつ効果が持続的で、良好な沿道景観の維持・向上に努める必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・定期的なパトロール等により生育・開花の状況を継続的に確認し、植栽箇所の環境条件に応じた適切な花木や草花を各季節で開花できるように選定や管理方法、育成点検、灌水手法について検証し、各土木事務所や造園業者と連携して改善策を検討しながら、品質確保と向上を図る。
- ・道路ボランティア団体への支援・普及啓発により、住民と行政の協働による「美しい道路環境づくり」を推進する。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	〇魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	主要道路における沿道空間の緑化事業			実施計画記載頁 197
対応する主な課題	⑤中・高年及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化など人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
亜熱帯性気候の特性を生かした魅力ある花や緑であふれる県土を形成するため、主要道路の重点緑化を行い、沖縄らしい風景づくりを推進するとともに、温暖化防止に寄与する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		280km 道路緑化・育成管理延長				> 300km(累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		亜熱帯性気候を活かした道路植栽・街路樹の育成管理				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名		R元(H31)年度					平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源
県単等	委託	831,364	784,645	930,757	933,724	1,109,380	1,193,756	県単等
予算事業名							平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
							〇H30年度: 主要道路(285km)について、沿道空間における除草や道路植栽・街路樹の剪定等を通年実施した。	
							〇R元(H31)年度: 効率的・効果的な除草作業と、道路植栽の適正管理を実施し、沿道環境に配慮した道路空間の創出を図る。計画値: 290km(累計)	

予算事業名		R元(H31)年度					平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源
							〇H30年度:	
							〇R元(H31)年度:	

活動指標名	H30年度				H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
道路緑化・育成管理延長	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	280km	280km	280km	280km	285km	285km	100.0%
活動指標名	H30年度				1,109,380		順調
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
活動指標名	H30年度						
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B

(2) これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①道路植栽の適正管理については、当該ガイドラインに基づき効率的・効果的な管理を継続し、実証試験区のモニタリングやワーキング会議の実施によりフォローアップを行うなど、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。 ②街路樹の剪定については、路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけるなど、街路樹の管理の改善を図る。 ③道路ボランティアの普及啓発に向けて、各種支援内容の充実や広報等を推進する。	①雑草の刈払い後に除草剤を使用する路線を増やすことで、効率的・効果的な管理を行った。また、街路樹の剪定についても、道路利用者の安全性確保に努めた。 ②道路ボランティアの支援と普及に努め、前年度の372団体から399団体まで増加させることができた。 ③アレロパシー植物や芝等における実証試験区のモニタリングや各土木事務所を含めたワーキング会議の実施によりフォローアップを行い、有効な植栽管理について意見交換を行った。また、除草剤を使用する路線を増やし、新たな箇所でもアレロパシー植物や芝を活用するなど、良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・主要道路における沿道空間の緑化事業については、沿道環境に配慮した道路空間の創出のため、年4回程度の除草作業が必要であり、路線の状況に合わせて除草回数を増やしたり、雑草の刈払い後に除草剤を散布するなど、効率的・効果的な植栽管理が必要である。

・街路樹の剪定について、道路利用者の安全性確保を優先し、交差点部などの必要最小限しか行えず、適正管理の観点からは改善すべき点が多い。

○外部環境の変化

—

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・道路植栽の管理については、「沖縄県沿道景観向上技術ガイドライン」に基づき、雑草の刈払い後に除草剤を使用するなど、効率的・効果的な管理を行っており、今後も、当該ガイドラインに準じた作業を周知・徹底し、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る必要がある。

・街路樹の剪定については、路線状況に応じて優先順位をつけるなど、街路樹の管理の改善に取り組む必要がある。

・道路ボランティアとの協働による美化にも取り組んでおり、継続してボランティアの支援強化と普及啓発にも努めていく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・当該ガイドラインに基づいた管理を継続し、実証試験区のモニタリングするとともに、新たな雑草防除及び景観形成に有用な植物の導入試験の実施等により、長期間良好な沿道景観の維持、除草回数の軽減を図る。

・路線ごとの課題を整理したうえで優先順位をつけて街路樹の剪定を行う。

・道路ボランティアの普及啓発に向けて、民間を活用した他府県の先進事例の調査や、県内の優良事例の学習会を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進
			施策の小項目名	○魅力ある観光まちづくりの支援
主な取組	宮古広域公園整備事業		実施計画記載頁	197
対応する主な課題	⑤中高齢及び外国人の観光客増大に対応するため、公共施設や観光拠点施設のバリアフリー化・ユニバーサルデザイン化などに優しい安全・安心・快適な観光地づくりに取り組む必要がある。また、多様化する観光需要に対応するため、沖縄らしい風景づくり、憩いの場やレクリエーション施設の整備など、国際的な観光リゾート地にふさわしい観光まちづくりに市町村と連携して取り組む必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
伊良部大橋の開通により一体となった宮古圏において、観光振興に寄与する広域的なレクリエーションの場として、宮古広域公園を整備する。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	県、宮古島市					
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】					
		基本設計、環境アセス、用地補償、整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	宮古広域公園基本設計等事業費						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 沖縄県環境影響評価条例に基づく環境影響評価準備書作成等を実施した。
県単等	委託	15,780	25,482	37,734	82,451	58,974	24,353	県単等	○R元(H31)年度: 都市計画図書及び環境影響評価書を作成する。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: —
		—	—	—	—	—	—		○R元(H31)年度: —

活動指標名	基本設計、環境アセス、用地補償、整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要 沖縄県環境影響評価条例に基づく環境影響評価準備書作成に取り組んだ。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	環境アセスの実施	—	100.0%	58,974	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 環境影響評価準備書作成について、関係機関と適宜調整を行い、効率的かつ順調に取り組むことができた。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
・当該公園の基本方針「海と海辺を活かした公園」を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の施設設計を行うため、関係機関等との協議体制をつくり検討を進める。						・関係機関で構成する「宮古広域公園整備推進会議」を設置し、公園予定区域に係る区域等、課題について情報共有を行った。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・宮古島の観光スポットとして根付きつつある民間施設が公園予定地内に位置しており、有効活用方法を検討する必要がある。

○外部環境の変化

・平良港における「平良港国際旅客船拠点形成港湾」の指定や下地島空港の「みやご下地島空港ターミナル」開業に伴い、近年、宮古圏域における入域観光客は大幅に増加している。観光リゾート地としての更なる魅力向上を図るためにも、広域的なレクリエーション需要に対応した広域公園の整備に努める必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・当該公園の基本方針(海と海辺を活かした公園)を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園施設を検討する。



4 取組の改善案(Action)

・基本方針「海と海辺を活かした公園」を踏まえ、多様なレクリエーション需要に対応した公園の早期整備に向け、引き続き推進会議で連携を図り、都市計画決定の手続きを進める。

「主な取組」検証票

施策展開	3-(2)-エ	観光客の受入体制の整備	施策	② 観光まちづくりの推進	
			施策の小項目名	○誰にでも優しい観光地づくり	
主な取組	案内表示の充実強化(道路案内標識等)			実施計画記載頁	198
対応する主な課題	④外国人観光客の受入体制については、多言語表記による観光案内板の整備などが観光客数の拡大傾向に追いついていないことや、国際的な観光地に比べ脆弱な決済インフラや通信インフラの解消が課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
道路案内標識の適切な設置および修繕・更新を行うとともに県内の主要な地名を示す目標地や主要な観光地を示す著名地点等をローマ字、英語を併記することで外国人観光客等の道路利用者に対してわかりやすい情報提供を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		12基 案内標識の設置・更新・修繕				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路管理課 【098-866-2665】					
		案内標識の設置・更新・修繕				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	423,469	60,773	84,454	118,446	138,379	130,847	一括交付金(ハード)	○H30年度: 県管理道路において、案内標識等を8基新設し、74基修繕した。 ○R元(H31)年度: 案内標識の設置・更新・修繕を12基行う。
予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
									○H30年度: ○R元(H31)年度:

活動指標名	案内標識の設置・更新・修繕				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	12基	12基	12基	18基	82基	12基	100.0%	138,379	順調	県管理道路において、案内標識等を8基新設し、74基修繕した。
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
活動指標名	—				H30年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案					反映状況					
①人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりのため、案内表示の充実強化について、道路案内標識の英語表記は、表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ改善を実施するものであるため、引き続き、修繕・更新の整備も行っていく。					①沖縄ブロック道路標識適正化委員会にて検討された、八重山地域の英語表記の改善箇所について、5基の改善を行った。					
②沖縄ブロック標識適正化委員会にて積極的に情報提供し、案内箇所、案内ルート、英語表記内容を検討していき整備を推進していく。					②沖縄ブロック道路標識適正化委員会の中で、国と県にて新規案内施設、案内ルートの検討を行い、下地島空港を標識で案内対象となる著名地点に登録した。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・国土交通省から各地方公共団体へ平成25年9月の道路案内標識改善方針(案)が通知されたが、一部の標識においては、ローマ字表記から英語による表示・表記に改善されていないものがある。

・国土交通省から、訪日外国人をはじめ、すべての利用者に分かりやすい道案内を実現するため、高速道路ナンバリング化が示された。(H30年度でナンバリング化対策済)

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・観光立県として、道路案内標識が外国人旅行者にも分かりやすいものとなるように国・県の道路管理者が一体となり、新設案内箇所英語表記方法、既存標識の適正な英語表記への改善していく必要がある。

4 取組の改善案(Action)

・人に優しい安全・安心・快適な観光地づくりのため、案内表示の充実強化について、道路案内標識の英語表記については、表示内容を点検し、国・県の道路管理者が一体となり、必要に応じ協議し、引き続き、修繕・更新の整備を行う。

・沖縄ブロック標識適正化委員会にて積極的に情報提供し、案内箇所、案内ルート、英語表記内容を検討し整備する。